

日本での交換留学生活について

梨花女子大学

キム・イエダム

私は梨花女子大学からのキム・イエダムです。交換学生を申し込んだときは、コロナの状況が落ち着いて日本に行くことができると思いましたが、落ち着かなくて韓国で一学期の間オンライン授業に参加することになりました。

オンライン授業でしたが、お茶大の授業は梨大の授業とは全く違う授業形式と雰囲気でした。梨大での授業では少なくとも30人、大体50~100人の学生と一緒に授業を受けています。だから、学生の間で意見を共有したり話し合ったりするのは難しいことでした。しかし、お茶大の授業は6人から多くても20人ほどの学生が授業を受けて、討論や教授と一対一で疎通するなどの授業形式が多かったです。このような授業を大学時代に経験することができて良い機会だったと思います。私は多くの人の前で自分の意見を言うのに慣れていなかったもので、最初はこのような授業形式がとても難しかったです。しかし、毎週授業で私の意見に対するクラスメートや教授のフィードバックを聞いて、今はもう少し自信を持って自分の意見を話せるようになりました。

私は専攻の社会学の授業を2つ取りましたが、その中で「社会政策論演習」が印象に残っています。この授業は、一人の学生がその日の教材をまとめて30分程度で発表をして論点を提示してから、チームに分かれて40分程度討論する形式の授業でした。この授業は、貧困の問題を巡る授業なので学術用語も多く、社会現象や福祉などの問題を日本語で話すのは非常に難しいことでした。私はこの授業で唯一の外国人であり、この授業で私が最も多く言ったことが「申し訳ないのですが、もう一度教えてくださいませんか。」でした。ところが、同じチームになった日本人の学生たちが難しい言葉を簡単に説明してくれて、留学生がこの授業を聞くのがすごいと言いながらいろいろと配慮をしてくれました。また、私が韓国人として韓国の状況を話せば、日本人の学生たちもそれについて興味深く感じて、日本との共通点や相違点などを話し、一緒に意見交換ができてよかったです。

日本語授業の中では萩原先生の「日本事情演習3B」が印象に残っています。一番宿題の量が多く、たくさん話す必要があった授業でした。それが少し負担になったのですが、一学期を終えたら学んだことが多い授業だったので嬉しいです。

また、日本語の授業だけを受けることに自信がなくて気軽に登録した英語の授業で、日本人の友達も作りました。その授業では、他の学生と 一対一で会話する機会が多かったのですが、偶然に1人の学生とよくチームになりました。その学生とはその時間が授業に参加している感じではなく、友達と遊ぶようにいつも楽しく会話し、授業の最後の日にお互いのラインIDを交換しました。その子はコロナが終わったら韓国に行くつもりだと言ったし、私は日本に行くつもりだと伝えた。それで誰が先に相手の国に行くのかを見ようと言いました。早くコロナが終わって日本に行って実際にその子に会いたいです。

最後に、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、国際課の方々に感謝したいです。日本には行けないまま学期が終わりましたが多くの方面でサポートしてくださってありがとうございました。次に有益な授業を準備してくださった三宅 先生、坂本 先生、陳 先生、崔 先生、西坂 先生、ALLEN 先生ありがとうございました。特に萩原 先生と松田 先生には、授業以外にもHRで色々サポートしていただき、誠にありがとうございました。

そして、指導教員の杉野 先生、毎月振り返りシートを確認していただき本当にありがとうございました。12月の振り返りシートでは、返信に先生が韓国に来たときに撮った写真を送ってくださって嬉しかったです。